



環境レポート 2018



Top Message

平素は、当社への格別のご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

近年、環境に対する国際社会の動向は、地球温暖化の影響による気候変動や人口増加にともなう資源枯渇など、さまざまな環境問題が顕在化してきており、これらの課題解決に地球規模で取り組むことが必要になってきています。

特に地球温暖化の問題に関しては、現在および将来の気候の保護を目的として2015年に行われた『国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)』において採択されました『パリ協定』により、産業革命前からの世界の平均気温上昇を2℃未満に抑えることを目標に、国際社会全体で温暖化対策に取り組む事となりました。このことは、重要な環境問題の解決に向けて社会の意識が高まるなか、グローバルに活動する企業にとっても積極的な対応が期待されていると受け止めております。

このような状況から、企業が環境問題の解決において果たす役割はますます大きくなっており、社会からの様々な要求・要望に応じていくことは必要不可欠となっており、もはや企業は利益を追求するだけではステークホルダーから選ばれない時代となりました。これまでの価値観を大きく変え、地球や社会と共存する目標を定め、それに向かって着実に行動する必要があります。

株式会社ナカニシでは、地球環境の保全が人類共通の重要課題の1つであることを認識し、事業活動のあらゆる段階で地球環境の保全に配慮して行動していく事を環境方針の基本に掲げ、環境にやさしい企業活動を進めて参りました。企業にとって、環境の問題に対する取り組みは、企業の社会的責任の最重要課題の一つとして捉えております。

私たちナカニシ社員は、環境への負荷を低減したモノづくり、環境に配慮した製品、環境に貢献できる製品を創出していくことが最も重要な使命だと考えています。「モノづくり企業」として、「低炭素社会」「高度循環社会」「自然共生社会」の構築をめざし、社員一丸となって、その実現にむけ積極的に取り組み、高品質で高付加価値製品の開発や環境に配慮したモノづくりに取り組む事で、人々の生活に新たな価値を提供しております。

また、環境法規制は世界でより厳しさを増しており、お客様の環境ニーズも多様化しています。私たちは、こうした動きを機会と捉え、スピード感を持って取り組み、より環境性能の高い製品をいち早く提供していくことで、モノづくり企業としての責任にも貢献していきます。

私たちは、環境に配慮した製品・サービスを世界中に提供していくことで、全従業員の質と技術力を高め、「モノづくりを通して社会に貢献する」企業を目指し、持続可能な安全で豊かな地球環境の未来を創出していきたいと考えています。

株式会社ナカニシは、次世代の人々に環境活動を継承しつつ、事業発展のために継続的改善に努め、利害関係者の皆様へ最良の価値を提供してまいります。

株式会社ナカニシ 代表取締役社長
中西 英一

環境方針

株式会社ナカニシは、歯科医療用機器をはじめとした超高速回転機器製品の開発・設計・製造・販売・サービス等の全ての企業活動において、事業活動に影響を与え得る組織の状況を考慮し、未来の地球環境に向けて環境負荷を軽減し、自然との調和、健康的で豊かな社会づくりを目指すことを経営の基本におき、次の環境活動を実施する。

1. 汚染予防を含む環境保護の推進

当社の全ての活動において、環境負荷物質の削減による汚染予防と、組織の活動、製品及びサービスから生じる危害及び劣化から自然環境を保護することに努める。

2. 省エネルギー・省資源の環境パフォーマンスの継続的改善

製品を含む当社の全ての活動分野において、省エネルギーによる地球温暖化対策、リサイクル等による省資源を重点とした環境パフォーマンスの継続的改善に努める。

3. 環境関連法規制その他当社で決定した要求事項の順守

当社の全ての活動、製品及びサービスに関する環境関連法規制及び、利害関係者のニーズと期待に影響を及ぼすと判断した事項を確実に順守する。

4. ライフサイクルを考慮した全てのプロセスにおける環境負荷の低減

製品の企画開発の段階から製造・販売、そして製品が使用されて廃棄に至る全てのプロセスにおいて、当社の活動が環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で環境目標を定め、全員参加での環境負荷低減活動を実施し継続的改善に努める。

5. 利害関係者とのコミュニケーションの推進

周辺地域を含めた利害関係者とのコミュニケーションを図り環境維持に努める。

6. 環境方針の周知

当社に関連する全ての利害関係者に対して、環境方針と地球保全の大切さを伝達する。

環境マネジメントシステム

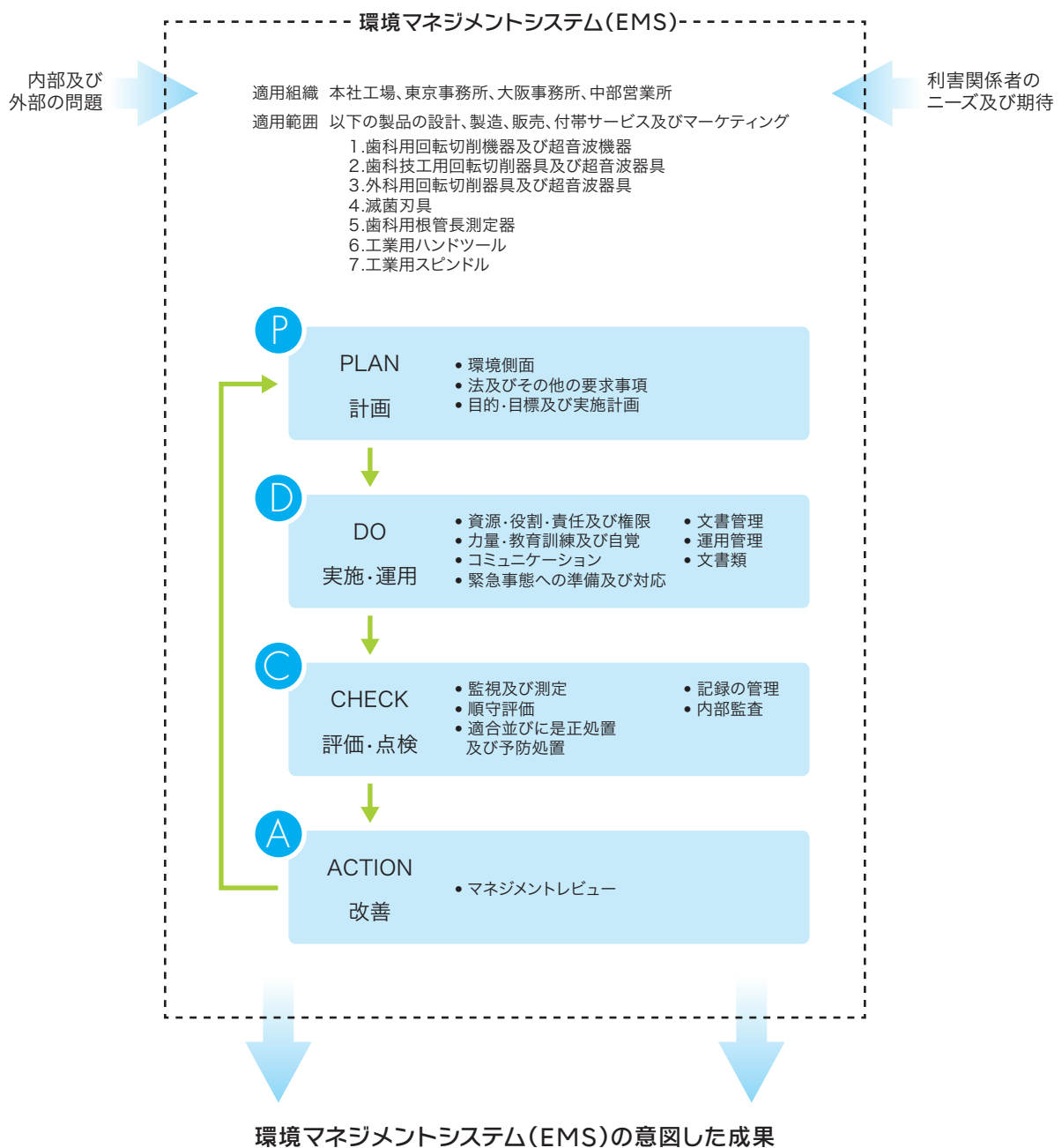
環境問題は世界中の人々に共通する重要な課題であり、企業の環境負荷軽減への取り組みが経営の質、ひいてはその製品への評価にまで影響する時代となりました。株式会社ナカニシでは、1999年1月に世界標準の環境マネジメントシステムであるISO14001の認証を取得し、早くから環境に配慮した事業運営に取り組んでおります。

当社では、歯科医療用機器をはじめとした超高速回転機器製品の開発設計・製造・販売・サービス等の全ての企業活動を通して、未来の地球環境に向けて環境負荷を軽減し、自然との調和、健康的で豊かな社会

づくりを目指すことを経営の基本におき、環境活動を実施しています。

当社は、さまざまな環境課題に対して、製品ライフサイクルの全段階で取組みを推進しております。開発、製造、販売、管理部門を含めたすべての組織活動のもとでシステムを運営し、各組織が効率的に連携しながら、ISO14001の認証を取得しています。

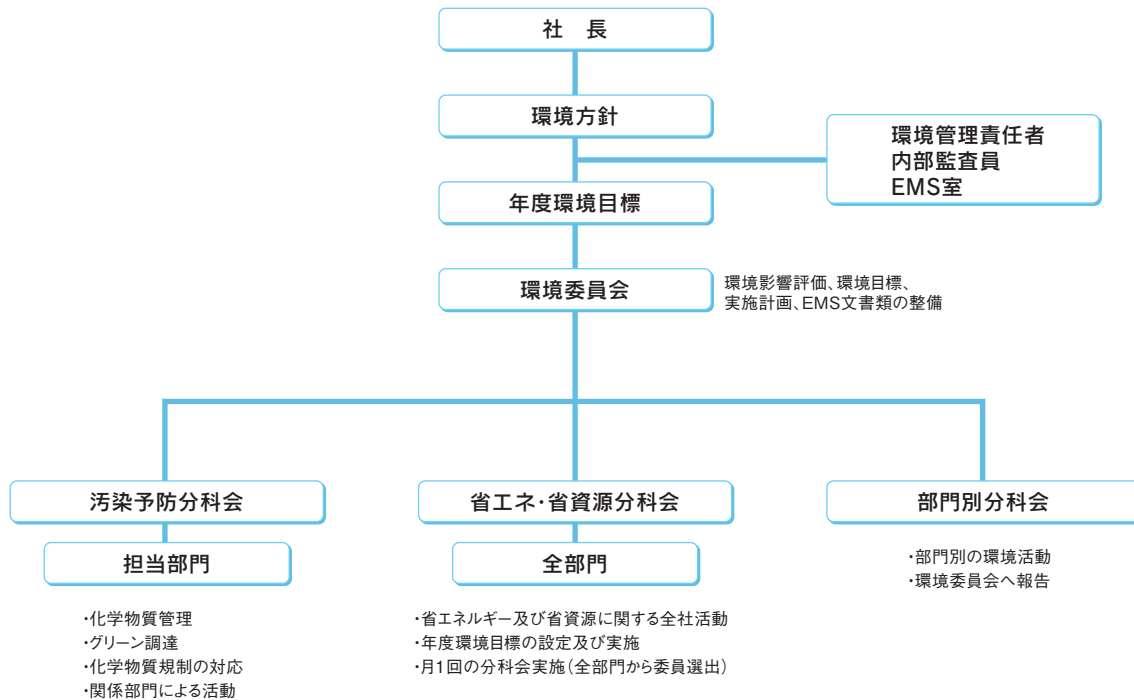
また、2017年度にはISO14001:2015年版への移行を完了させており、今後も、環境負荷の低減を追求し、環境保全と経済的発展の両立を目指し、全従業員で積極的に取り組んでまいります。



環境管理推進体制

株式会社ナカニシは、マネジメントシステムを管理する主管部門とし、マネジメントシステム課を設けてEMS/QMSの運営を担当しております。
このマネジメントシステム課の中にEMSの専門組織を置き、環境方針の決定、環境目標の設定、環境関連法規制の順守等、重要な審議・決定を行っています。
また、当社では環境マネジメントシステムの運用管理

や文書審議等を担当する環境委員会や、RoHS指令やREACH規則等の各国の化学物質に対する要求事項の監視や、当社への影響性を検証する汚染予防分科会、省エネルギーや3R(リユース、リデュース、リサイクル)推進等を主な活動とする省エネ・省資源分科会を設けており、それぞれの会議体を通して、あらゆる議題を検討・審議し、全社活動に展開しております。



環境監査

株式会社ナカニシでは、年に1回実施している内部環境監査で、マネジメントシステムの適合性、順法性、有効性を確認する他、中期目標に対する推進状況を確認することで、マネジメントシステムが有効に機能していることを確実なものとしています。この内部環境監査の結果は、マネジメントレビューのインプット

として、経営層に報告をしております。
また、調達部門および生産管理部門が中心となり、サプライヤに対する環境取引先監査を実施しております。環境取引先監査では、現状の課題の共有の場と位置づけ、互いに協力しながら課題解決に向け取組みを推進しております。

環境法令遵守

地球温暖化や資源エネルギー問題をはじめ、地球環境問題の広域化・グローバル化が進む中、持続可能な成長を目指して各地域、各国レベルでの政策・規制の見直しや強化が進んでいます。

株式会社ナカニシでは、生産、販売の各組織において環境法規制が確実に順守されるよう、環境関連法規制の順法管理を強化しています。

2018年度は、部品の加工工程をA1工場に移設したことで、水質汚濁防止法の特定施設の変更や、危険物倉庫や騒音・振動規制法にもとづく設備の設置申請

などの対応が必要となりました。

また、化学物質関連では、欧州RoHS指令が改定され、フタル酸エステル類が規制の適用となる事から、フタル酸エステル類の代替化にも取り組みました。当社では、環境関連法規制を確実に順守するために、常に国内外の環境関連法規制の制改訂の情報を監視しております。その結果、2018年度は環境関連法規制及びその他の要求事項に対する違反はありませんでした。引き続き環境関連法規制及びその他の要求事項の監視に務め、確実に順守してまいります。

主な関連する環境法令

水質

- 水濁法
- 浄化槽法

地球環境

- 省エネ法
- フロン排出抑制法

騒音・振動

- 騒音規制法
- 振動規制法

廃棄物・リサイクル

- 廃棄物処理法

安全・施設

- 安衛法
- 高圧ガス保安法
- 消防法

化学物質

- 化審法
- 毒物及び劇物規制法
- PRTR法
- PoHS指令
- REACH規制

注) 上記は、株式会社ナカニシを取り巻く一部の環境法令を示したものです
注) 株式会社ナカニシでは、事業に関連する各国法規制や地域条例も遵守しております

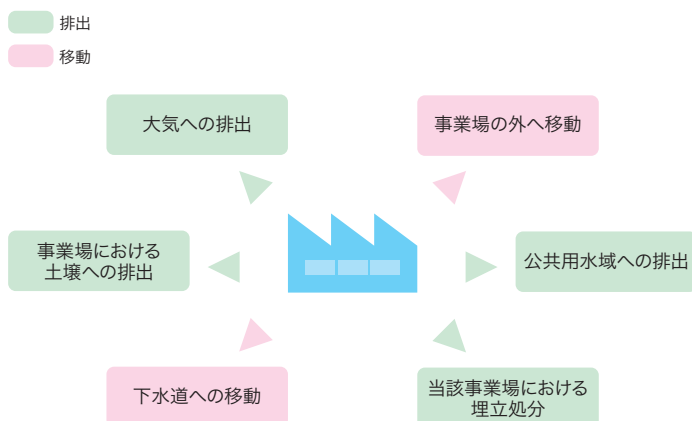
PRTR物質(Pollutant Release and Transfer Register)

2018年度のPRTR法の規制対象物質の取扱量が、年間2.4トンとなりましたので、排出量及び移動量の届出を実施しました。

2018年度は、金属加工の専用工場であるA1工場を新規に稼働させたことで、規制対象物質の取扱量が前年比37%増加しております。

その内訳ですが、約86%が部品の洗浄に使用していますアブゾールとなっており、使用後は、全て再製処理を実施しているため、PRTR法の移動量は“ゼロ”となります。

今後においては、PRTR法の規制対象物質の代替化等の検討に取り組み、取扱量の削減に努めてまいります。



PRTR法の第一種指定化学物質

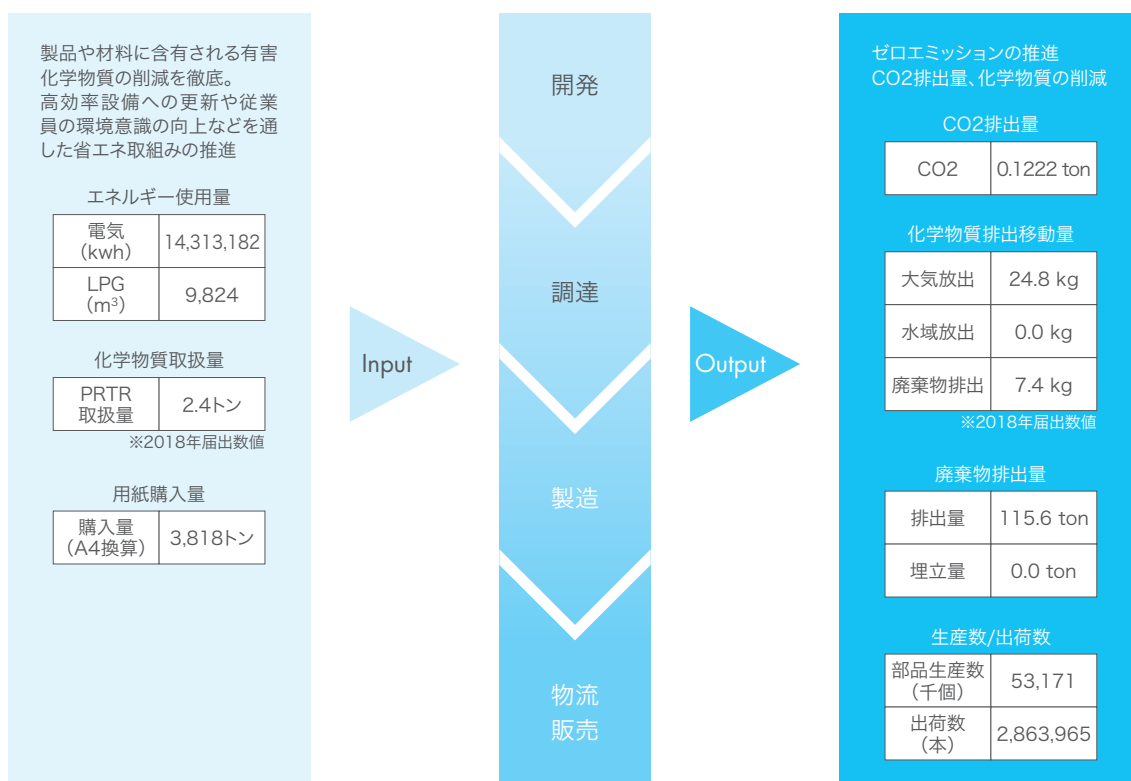
		項目	2018年度
排出量		大気への排出	24.8
		公共用水域への排出	0.0
		土壌への排出	0.0
		埋立処分	0.0
		排出量合計(kg)	24.8
移動量		下水道への移動	0.0
		事業場外への移動	7.4
		移動量合計(kg)	7.4

排出量：生産工程などから排ガスや排水などに含まれて環境中に排出される量

移動量：廃棄物の処理を事業場の外で行うなどで移動する量

1. 事業活動による環境負荷の全体像

当社におけるマテリアルバランスを示しています。



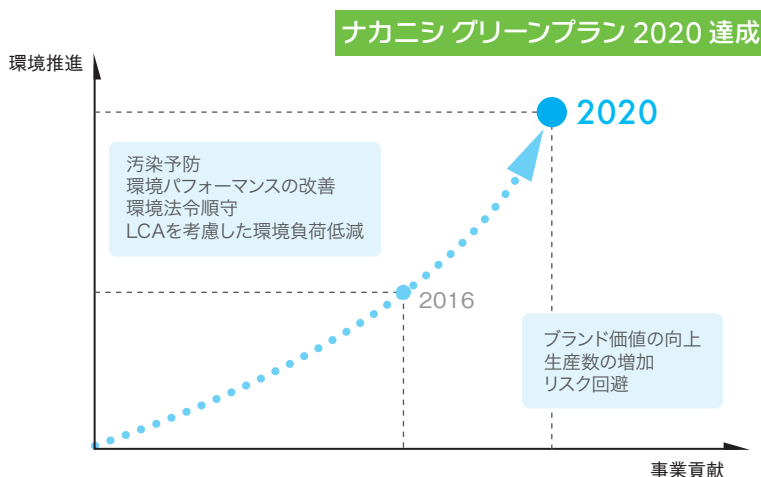
2. 環境負荷低減活動

株式会社ナカニシでは、中期計画の『ナカニシグリーンプラン2020』を掲げ、改善活動に取り組んでおります。また、環境課題を効率良く改善するには、当社だけの取組みでは限界があります。サプライチェーン全体、つまり部品の供給を受けるお取引先様から、製品を提供するお客様まで、あらゆる

利害関係者様と地球環境への思いを共有し、ともに取り組んでいくことによって、環境課題の解決へ向けた貢献をより大きなものへと発展させる事ができると考えております。

株式会社ナカニシは、環境課題の解決に貢献する取組みを、利害関係者様と協力しながら実施しております。

環境課題		2016	2017	2018	2019	2020
CO2削減	CO2排出量の削減	生産原単位 前年比 1%削減	生産原単位 前年比 1%削減	生産原単位 前年比 1%削減	生産原単位 前年比 1%削減	生産原単位 前年比 1%削減
	生産活動以外のCO2を削減	生産以外のCO2削減 生産以外の貢献量をCO2削減効果に反映 ①製品の省エネ ②物流省エネ ③事務所省エネ ④効率設備代替				
資源循環	廃棄物排出量	生産原単位 前年比 1%削減	生産原単位 前年比 1%削減	生産原単位 前年比 1%削減	生産原単位 前年比 1%削減	生産原単位 前年比 1%削減
	ゼロエミッション推進	リサイクル率:99.7%以上を維持 大型シュレッダー搭載車による機密情報の廃棄(有価物)、廃棄物立入調査の実施				
水	排水基準(BOD)の順守	BOD(生産化学的酸素供給量)の排水基準の順守(自主基準の設定) ※市水(食堂・本館・手洗い場)、地下水(その他)→削減から水質維持へのシフト				
紙	資源枯渇による使用量削減	生産原単位 1%削減	生産原単位 1%削減	生産原単位 1%削減	生産原単位 1%削減	生産原単位 1%削減
化学物質	第一種指定化学物質の管理	第一種指定化学物質の取扱い量及び排出量・移動量の把握				
	グリーン調達への推進	調査・回答 インフラ整備	取引先含有調査の対応 法規制への順守(グリーン調達ガイドラインとの整合)			
順法	監視・測定	環境法規制及び自主基準の100%順守 関連法令の改訂情報の事前把握				



2-1. 省エネルギーの推進

株式会社ナカニシの総エネルギー使用量は、近年の生産量増加に伴い、2011年度以降増加傾向を示しております。

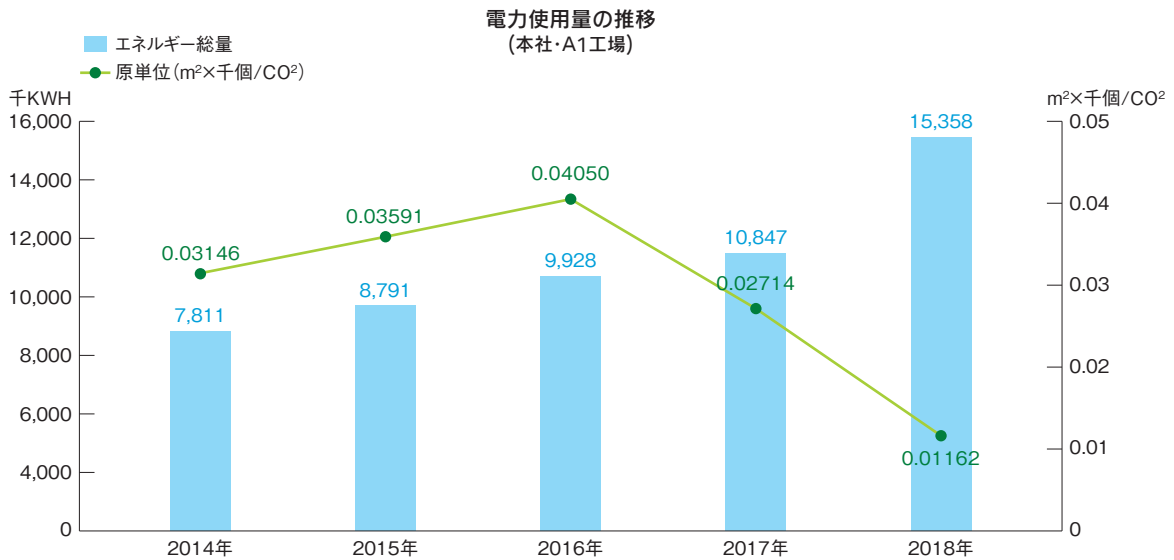
また、2018年度の総エネルギー使用量は、前年度の総使用量の約32%の増加となりました。

これは、近隣の工業団地内に加工専用の工場(A1工場)を稼働させたことが原因と考えております。A1工場では、生産工程の一部を24時間稼働させており、且つ100台強のオイルミスト集塵機を設置し、常時作業空間に飛散するオイルミストを回収し処理しています。

当社では、これまでに省エネに対する積極的な投資を継続して参りました。例えば、太陽光パネルの設置や、電力の見える化システムの導入、A1工場では製品保管庫をパーティションで仕切る事でエアコンの稼働台数を削減するなど、提案活動を通して、現場に入り込んだ省エネ活動を開始しました。

ISO14001の活動を通して、当社の従業員が環境への意識を高く持ち、常に自分達で取り組める身近な改善を地道に行って参りました。引き続き、最新の省エネ技術を監視し、且つ地道に身近な改善活動を積極的に推進してまいります。

■ エネルギー総量



1)太陽光パネル設置

当社G棟南側の壁面に太陽光パネル256枚を設置しております。
年間の発電量は、一般住宅の約8件分に相当する約33,000kwhとなり、G棟の照明に活用しています。

2)『電力の見える化システム』を導入(本社、A1工場)

社内の全職場に電力モニターを設置し、リアルタイムで電力使用量を監視するとともに、デマンド超過を予測し事前に警報を発信する機能を付加しており、常に従業員の省エネ意識が向上しております。

3)全社のエアコンに自動制御システムを導入(2015年度)

エアコンの自動制御システムを導入し、ランダムに30分間の稼働時間に対し3分間を停止させ、エアコンによる電力使用量を10%削減しております。

なお、社内のエアコンの設定温度は、夏季28℃、冬季21℃の温度設定を厳守中です。

4)ハイブリット車の積極的な導入

本社工場及び各営業所で使用する社有車は、一部の用途を除いてガソリン車に比べて環境影響の少ないハイブリット車を積極的に導入しております。2.0Lガソリン車と走行時CO2排出量を比較すると、34%向上しております。

5)新電力への切替え

電力の自由化に伴い、新電力への切替えを実施致しました。当社では過去に関東大震災や2015年度に栃木県鹿沼市を襲った大洪水等で生産に大きな影響を受けた経験を持っております。従いまして、自然災害による生産性への配慮に関しては、十分な検討を(電力供給のリスクアセスメント)を実施した上で、切替えを判断しております。

6)R&Dセンターの稼働(環境配慮型建築物)

2017年4月から稼働している新本社棟のR&Dセンター棟は、外壁の材質や構造及び、照明やエアコン等の使用設備にも環境に配慮したものが導入されております。また、中央監視システムを導入し、常に各管理値を遠隔で監視しております。



外壁材

建物の外壁は「環境パネル」と呼ばれるΣ型のアルミパネルで覆われ、構造躯体や外断熱材を保護しています。

環境パネルは日射制御や自然換気装置としての機能により、断熱性能を高め、内部環境の快適化と高い省エネ性を実現しています。



照明

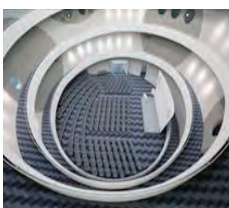
全館LED照明とし、一部人感センサーを採用することで、消し忘れ防止による省エネルギーに貢献しています。



植樹・植栽

サクラやケヤキ、芝など10種類300本以上の植樹や種子散布を行うなど緑豊かな外構(庭園)を整備しました。

また、正門向かい側の県有地をヘテラ類の地被植物や種子散布により修景し、定期的に周辺道路のゴミ拾いを行うなど環境美化活動を実施しています。



床冷暖房などによる床下空調

エントランスやショールーム、4層吹き抜けのセンターコートなどの大空間では、豊富な地下水を利用した床冷暖房と床下からのエアコンを連動させたシステムを採用することにより、居住域空間を快適にすると共に高い省エネ性を実現しています。

7)A1工場の稼働

当社は、精密部品の85%を自社で内製化しております。これまで複数の建物に分散していた多数の工程を1つの棟内に集約した「A1工場」を2018年3月に稼働しました。この「A1工場」では、部材の削り出しから仕上加工までの多数の工程を一棟化し、ムダやロスの少ない最適化された生産ラインを構築することで、生産キャパシティの増強、製品の品質と生産効率の大幅な向上を図ることを目的としております。この「A1工場」における環境負荷としては、エネルギーの使用があげられます。当社のエネルギーの約

7割が「A1工場」で消費されていることから、生産技術部門、加工部門と連携し、コンプレッサーの適正稼働や、エアー消費量の削減、集塵機の回収能力の適正化などの省エネ取組みを推進しております。

また、「A1工場」では、作業空間に飛散するオイルミストを常時回収し処理しているなど、従業員の働きやすい環境にも配慮しております。

当社は、今後もグローバル企業として、モノづくりを通して、地域環境や作業環境に配慮し感動を与える革新的な製品をタイムリーに提供してまいります。



2-2. 廃棄物削減、リサイクル

廃棄物の削減は、3R(リデュース・リユース・リサイクル)が最も効果的です。株式会社ナカニシは、産業廃棄物の排出量を削減する活動と共に、3Rを推進する事で資源循環及びゼロエミッションを目標に取り組みを推進しております。

2018年度の廃棄物総排出量は、約115.6トンとなり、廃プラスチック、廃油、汚泥で約93%を占めております。また、これまで減少傾向にあった生産原単位は、2018年度は大きく増加し、2.175kg/千個となりました。この原因としては、A1工場内で使用している床洗浄機が回収した油分を含んだ廃油量が増加したもので、生産に間接的に関与している廃棄物量の増加が、生産原単位を増加させている事が確認され、現

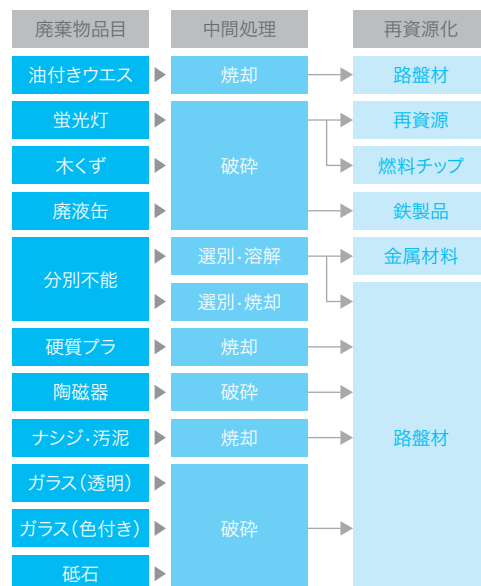
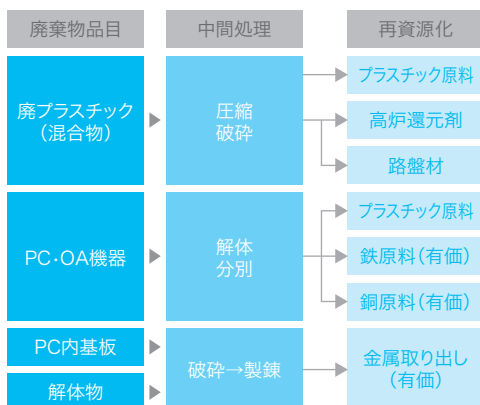
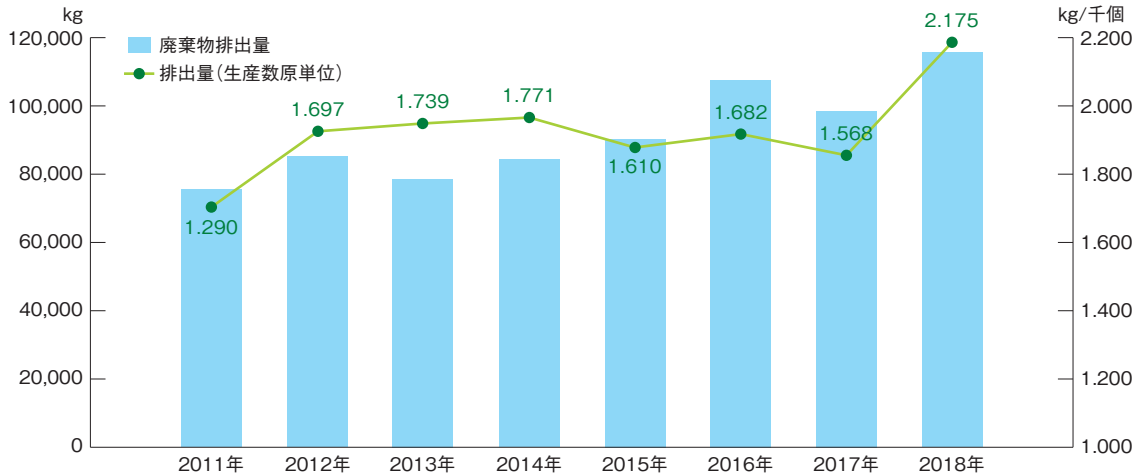
在は床洗浄機の頻度や範囲に制限を持たせ改善を行っています。

その他、ウエスのレンタル化や洗浄液の再生処理にも積極的に取り組んでおります。

また、省エネ省資源分科会が中心となり、廃棄物置場の5S活動を推進しております。分別を社内に徹底するために、見やすく、分かりやすく識別方法を工夫し、使う側の意見を取り入れながら、常に廃棄物置場の使いやすさへの検討を行っています。

当社では、『捨てればゴミ・分別すれば有効な資源』という考えに基づき、限りある資源を大切にするとともに、引き続き再資源化の推進に努めてまいります。

廃棄物排出量及び生産原単位の推移



■ 2018年度 環境活動評価

目的	目標	達成度	評価	状況
省エネルギー	CO ₂ 排出量の削減(2015年比3%削減)	63.7%	×	目標：0.0778ton-CO ₂ に対し0.1222ton-CO ₂
	コンプレッサー制御台数の適正化	100.0%	○	21台中8台を停止
省資源	廃棄物排出量の削減(2015年比3%削減)	71.8%	×	目標：1.562kg/千個に対し、2.175kg/千個
	洗浄液(HC-250)再生処理と再生品の導入	100.0%	○	当社の廃液を再生処理し再生した洗浄液を再利用
	ウエスのレンタルウエスへの100%切替	100.0%	○	使い捨てウエスを廃止しレンタルウエスへの切り替えを完了
	取扱説明書の統合化・コンパクト化	100.0%	○	年間効果金額：51万円
	図面の電子化	100.0%	○	タブレット端末を導入し加工図面を電子化
汚染予防	機工製品のフタル酸フリー化	100.0%	○	機工製品のフタル酸フリー化を完了
	取引先環境監査 購買先:10社、加工外注:4社	100.0%	○	環境活動の啓蒙と法令順守の確認

※評価基準 ○=達成率100% △=達成率90%以上100%未満 ×=達成率90%未満

※エネルギー、廃棄物の目標が未達成の原因は、新規工場が稼働した事によるものであり、作業環境や従業員の健康に配慮し、生産には直接絡まない部分での使用量が増加している事から、生産部門と連携して削減施策の検討を行ってまいります。

■ 工場廃水 & 生活廃水の水质管理(BOD値)

監視項目(単位:mg/L)		監視基準	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
浄化槽	3次処理槽 BOD	20	9.0	9.4	7.1	9.7	4.6	5.4	3.4	3.2
	30人槽 BOD	20	7.4	7.7	6.6	10.0	11.3	10.5	12.1	4.5
工場廃水	水素イオン濃度	5.8-8.6	7.5	7.5	7.6	7.3	7.6	7.5	7.6	7.7
	浮遊物質量 SS	50	3.8	4.1	1.1	7.2	8.9	16.6	11.3	4.0
	BOD	25	2.5	3.0	1.8	2.3	3.0	2.1	3.0	3.6
	ノルマルヘキサン	5	0.6	0.5	0.5	0.5	0.7	0.6	1.1	0.7

■ エコキャップ運動の推進(2018年度実績)

- 回収実績
28,380個(66kg) 累計:308,181個→前年比56%(50,740個)
- ワクチン
33人分(860個でポリオワクチン1人分) 累計:401.4人分
- CO₂削減量
207.9kg(3.15kgCO₂/kg) 累計:2,276.6kg

■ その他

- 切削油のリサイクル率99%以上
- 工場周辺の地域清掃
- 廃棄物処理業者の現地確認を実施

製品含有化学物質管理

近年、RoHS指令、REACH規則等の施行など、製品含有化学物質への規制は益々厳しくなっており、徹底した管理体制の構築・運用が求められています。

当社では、規制対象の化学物質を『入れない』『使わない』『出さない』を基本的な考えとして、『ナカニシグリーン調達ガイドライン』を構築し運用しております。特にREACH規則の対応については、SVHC(高懸念物質)を使用しない部材の調達を推進することはもちろん、1年に2回の頻度で、新たに追加されるSVHCの情報をいち早く入手し、使用する部材への影響性を確認しております。

RoHS指令では、フタル酸エステル類の適用が除外とされていた電気電子工具(カテゴリー6)が今年7月から適用となり、医療機器(カテゴリー8)は2021

年7月に適用となります。当社では、電気電子工具(カテゴリー6)の代替化は完了しております。

代替材料や代替部品の検討にあたっては、製品品質を十分に考慮し、耐久性・安全性・機能性・操作性等のあらゆる視点からユーザー様目線で評価を実施しています。

また、品質マネジメントシステムと連携を図りながら、規制物質を含有せない仕組みの構築をはかることが、ユーザー様と長期間にわたり信頼を築いていけるものと認識しており、このような活動、姿勢もまた、利害関係者様との最良の価値交換を実現するための1つとして捉えており、ナカニシブランドの責任と考えております。

グリーン調達

環境に配慮した製品を実現するには、仕入先様との協力体制が必要不可欠です。

当社では、環境に配慮したモノづくりを通して、規制化学物質が含有していない部品や材料を調達するという目的で、『ナカニシグリーン調達ガイドライン』を制定し、仕入先様の環境及び化学物質の徹底を図っております。

また、仕入先様を含むサプライチェーンでの化学物質管理体制の構築を目的として、年間を通して仕入先様に対し、環境監査や製品化学物質含有調査の協力をお願いしております。

製品含有化学物質の調査では、新たに「chemSHERPAツール」を導入し、化学物質規制の管理強化にも努めております。

当社が目指す『入れない』『使わない』『出さない』というところの『入れない』という取組みの一つに該当します。

この取組みは、川上企業である仕入先様の管理状況を向上させることにあり、川中企業・川下企業との信

用・信頼を構築することにも繋がります。当社では、今後も川上企業にあたります仕入先様を対象に、定期的かつ持続的な監査・指導を実施し、グリーン調達の体制を強化してまいります。

かつ、社内の各組織においては、環境法規制や社内規定に準じて、各国で規制されている有害化学物質の使用を禁止しております。ナカニシブランドの一員として、常に顧客満足度を向上させることがモノづくりの使命と考え、日頃からあらゆる高付加価値の製品開発や高効率なモノづくりを推進する中で、有害化学物質を『使わない』ことに徹しております。

当社では、徹底して『入れない』『使わない』取組みを強化する事で、当社から有害化学物質を『出さない』という目的が実現できるものと考えております。

当社では、常に変化する各国の環境法規制情報を監視し、『入れない』『使わない』『出さない』という目的を、協力会社様にもご理解を頂き、安心して当社の製品をご愛用頂けるよう努めてまいります。

生物多様性保全活動

株式会社ナカニシでは、原料の調達・製品の生産活動・事業所用地の活動に分けて、取組みを推進しております。

原料の調達では、サプライヤ様と連携し生物多様性に関する理解を深めながら相互協力により進めています。特に、グリーン調達を基にした有害物質の含有防止、納品時のアイドリングストップ、通い箱や緩衝材のリユース化などに取組んでおります。

製品の生産活動に関する生物多様性保全活動とは、使用するエネルギーや資源、それに発生するCO2や排水など、モノづくりを通じた生態系への影響のことで、当社ではBODの管理や太陽光パネルの使用、高効率設備の導入など常に環境保護を目的とした持続

的な活動を進めていきます。

事業所用地に関しては、構内緑地の確保や工場周辺の美化活動などの社会貢献活動を進め、地域環境や工場周辺の生態系への配慮を行っています。

生物多様性は、全人類にとって欠くことのできない大切な「めぐみ」をもたらしています。ゆえに生物多様性の保護活動は、全世界の取組みとして広がっています。当社が取り組むことのできる活動は、地道でささやかなものですが、全従業員が工夫をして、それぞれ出来る小さな活動を継続することは、大いに意義のある活動になると考えております。地道でも継続性のあるそんな活動を展開していきます。

啓発・教育

環境保全活動には、従業員一人ひとりの環境保全への意識向上が必要です。そのためには、充実した教育体系と継続的な教育が必要と考えております。

当社では、従業員の環境に対する知識を向上させる事を目的に、定期的に環境一般教育を行っています。新入社員や中途採用社員に対して、当社の環境方針やISO14001の要求事項、環境関連法規規制に関する知識を深めて頂くと共に、当社の取引先様や関係

部署に対し、欧州RoHS指令やREACH規則に関する化学物質の教育や、環境関連法規制の改訂内容の教育などを行っています。

また、小学校の工場見学等の来訪者様に対し、近年の環境問題と当社の環境活動に関する講義を実施しております。当社は、モノづくり企業として環境に対しても十分に配慮をし、地元地域に根付いた事業展開を実施している事をご理解いただいております。

地域とのコミュニケーション

株式会社ナカニシは、栃木県鹿沼市の地元企業として、地域(行政・地域住民等)とのコミュニケーションを重要視しながらモノづくり活動を継続しております。

当社では、省エネ省資源分科会が中心となり地域清掃活動『クリーンアップ ナカニシ』を推進しております。地域住民の皆様や当社従業員が毎日利用する道路を清掃し、安全に気持ち良くご利用頂けるよう工場周辺の美化活動に取り組んでおります。

この美化活動は、栃木県に「愛ロード」申請を行っており、我々の責任で工場周辺の環境を維持・管理する事をお約束しております。

また、この取組みは地域住民および当社に來社されるお客様からも高く評価を頂いております。



株式会社ナカニシ www.nsk-nakanishi.co.jp

本社・工場
〒322-8666
栃木県鹿沼市下日向700

TEL: 0289-64-3380
FAX: 0289-62-5636

東京事務所
〒110-0015
東京都台東区東上野4-8-1
TIXTOWER UENO 9F
TEL: 03-5828-4180
FAX: 03-5828-0064

大阪事務所
〒530-0057
大阪市北区曽根崎2-12-7
清和梅田ビル 10F
TEL: 06-6315-7217
FAX: 06-6315-7218

中部営業所
〒460-0008
愛知県名古屋市中区栄
愛織第2ビル 6F
TEL: 052-253-7770
FAX: 052-253-7771

ナカニシお客様相談窓口 ナカニシ コール
受付時間(土日祝日を除く)
9:00~17:00 ☎ 0120-7242-56
NSK製品に関するご意見・ご質問などございましたら、PHS・携帯からでもお気軽にお寄せください。